

【園芸用として直近1年以内除草剤使用者ベース】

(%)

		n=	コロナ禍以前より、 除草剤の使用経験がある	コロナ禍以降で、 除草剤を初めて使用した
2021年全体		974	91.7	8.3
性年代別	男性・計	566	92.6	7.4
	男性20代	31	80.6	19.4
	男性30代	59	84.7	15.3
	男性40代	68	91.2	8.8
	男性50代	103	96.1	3.9
	男性60代	152	94.1	5.9
	男性70代	153	94.8	5.2
	女性・計	408	90.4	9.6
	女性20代	25	84.0	16.0
	女性30代	58	86.2	13.8
	女性40代	68	85.3	14.7
	女性50代	69	94.2	5.8
	女性60代	92	94.6	5.4
	女性70代	96	91.7	8.3

※n=30未満は参考値のため灰色。

コロナ禍で初めてガーデニングに取り組んだ人は3.4%であったが、初めて除草剤を使用した人が8.3%おり、比較的若い人の使用が多く、興味深い結果となった。

最後に

行政は「農業に該当しない除草剤の販売」に関し販売指導の強化に取組み、成果を得ているところであり、当協議会も

販売状況などの情報提供と農業の適正使用の啓発に継続して取組みたい。

一方で OECD 加盟国ではいわゆる無登録除草剤というカテゴリーの商品は存在せず、作物の栽培・管理以外の場面で使用する除草剤についても、農耕地用の除草剤と同様に国による制約・規制を受けた上で商品化されている。我が国においても環境・水質への影響を考慮した場合、いわゆる無登録除草剤も「農業と統一されたリスク管理・基準」が必要と考える。

田畑の草種

白藜・藜（シロザ・アカザ）

杜子春は此度もまた夕日を浴びて、洛陽の西の門の下に、ぼんやりと、背丈ほどもある杖を持って佇んでいるのでした。こうしているとまた、あの白い顎髭を蓄え、それこそ自分が持っているような背丈ほどもある杖を持った鉄冠子という仙人がやってくるような、そんな気がするのです。もともと杜子春は金持ちの息子だったのですが、全財産を使い果たして、その日暮らしにも困る憐れな身分になっていたのです。そんな杜子春に鉄冠子は、三度の夢を見させてくれました。一度目、二度目とも鉄冠子の持つ長い杖で杜子春の影の頭や胸を指し示し、夜になったらそこを掘れと言われて掘ると、黄金が出てきて一夜のうちに大金持ちになったのです。でも贅沢三昧で、数年で使い果たし、元の憐れな身分に戻ってしまうのでした。

三度目には杜子春は鉄冠子のような仙人になりたいと望みました。鉄冠子は、杜子春を峨眉山へ連れて行き、これから先一言も口を利いてはいけないと言って去っていきました。残された杜子春は地獄の責め苦にも耐えながらも声を出しませんでしたが、地獄に落ちていた父母の優しい声に返事をしてしまい、

(公財)日本植物調節剤研究協会
兵庫試験地 須藤 健一

その夢を捨て去りました。

鉄冠子は杜子春の三度の夢のあと、黄金ではなく泰山の麓の家と畑をくれたのですが、やはり洛陽と違って寂しいところで、数年で洛陽に戻ってきたのでした。その時、杜子春の手には泰山の麓で鉄冠子に憧れて作った「藜の杖」が握られていました。

シロザ、アカザともにヒユ科アカザ属の一年草。全国の畑地での代表的な雑草。路傍や空き地にも生育する。春から夏にかけて出芽し、新芽の若い葉の基部が白くなるのがシロザ、赤くなるのがアカザ。特に肥沃な土壌でよく生育する。茎は直立し高さ60cmから150cmにも達する。成長すると茎は太くて堅くなる。特にアカザは乾燥させると軽くて丈夫な杖となり、仙人の杖、長寿の杖などと言われる。因みに、水戸黄門が漫遊した時に持っていた杖も藜の杖だったとか。近年、シロザは路傍や空き地で見かけるがアカザはほとんど見かけなくなった。

「藜」の字を充てて「アカザ」と読ませる。「シロザ」については「白藜」と充てて「シロザ」あるいは「シロアカザ」と読ませる。分類としてはシロザが母種でアカザが変種である。